

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議
〒169-0075東京都新宿区高田馬場2-6-10
関ビル106号 NPO新宿気付
TEL.090-3818-3450 FAX.03-5273-6895
<http://www.tokyohomeless.com>

その後の世の中と 新宿

笠井和明

大量の失業者やホームレス者を排出し、その対応に玩ばれている段階にもかかわらず、「年末の派遣村を起さない」と躍起になって懐柔を試みる政権与党の姿は実に滑稽に見えたりもする。

「派遣村」などと云うのはマスコミによって作られた誇大広告のようなもので、実は大労組が中心となって実施したその時期限定の実数500名程度の炊出しにしか過ぎない。そして、この運動がいわゆる「派遣切り」にあった元派遣労働者を有効に組織したのかと問われれば、その半数が路上生活者であったよう、プロの労組員ならば首をかしげざるを得ない状況であったと、後日参加された人々からよく聞いた話である。

サプライズ好きな国民にされてしまった私たちは、マスコミに躍らされ、そして運動の側も何か大きな事をやっているかのよう勘違いをし、単なる象徴的な行動でしかないものが、今やさも巨大な「亡霊」として民主党政権の中で幅を効かせるようにな

った。

大労組中心の行動だったせいもあり、政権批判に「派遣村」は直結した。場所もそのような場所をあえて選んだ。当時の野党議員はパフォーマンスとばかりこぞって応援にでかけた。

彼らはその「逆」を恐れトラウマに捕らわれているに過ぎない。

そして、組織したと勘違いをした運動体が出した方針が、生活保護の集団申請と云う使い古された行動であった。当座はそれで助かったかも知れないが、アフターケアなしの申請なので、ほとんど何も知らされずに生活保護の生活に移行し、当事者達はケースワーカーに反発し辞退をしたり、今も保護漬けになったり、その後の苦労はもちろん続いている。そんな事は想定されていたにもかかわらず、無責任な事に「派遣村実行委」は早々と解散。当事者は誰に相談すれば良いのかと、こちらにまでよく電話がかかってきたものである。

もちろんこんな杜撰な「派遣村」なら二度と起ってみたいとは思っていないが、果たして状況は改善されたのであろうか？

政局よりも景気対策と宣言した麻生政権時の補正予算により、ハローワーク中心の若年層をターゲットとした雇用対策が矢継ぎ早に打ち出され、セーフティネットの部分も、「住宅手当」など、いわゆる「第2セーフティネット」が完備されたと言われている。それにも係らず、失業率は5.3%、(9月)有効求人倍率は0.43倍(9月)である。高卒者の内定率も各地で軒並み37.6%(9月)と、製造業の凋落は地方経済をガタガタにし、また都



会も大量の失業者を抱え各所で悲鳴が上がっている。

「派遣村」の主旨が「派遣切りや解雇にあった若者達を自暴自棄にせず、希望をもって再出発させる」ことにあったのならば、これは今も必要とされる運動であろう。

政権が変わったから「派遣村」をなくそうとする行為は、自ら墓穴を掘ったに等しい。すなわち誰のための運動かを見失った成れの果てである。政治のために失業者を利用したと批判されたくないのなら、一時のブームに便乗するのではなく、また年末年始と言わず各地のハローワークの前でも地道に続けるべき運動である（実際にそう云う運動をやっている地方の活動家には本当に頭が下る思いである）。炊き出しが出来なければ、安い定食屋でも出せば良い。もちろんその場合、「派遣村」と云う誤解される名称や、アフターケアなし生活保護申請にしか目を向けられない体質は改めるべきであろうが。

現政権はさすがに何もしない訳にはいかないからと「緊急支援アクションプラン」(10/23)なるものを発表した。既に前政権下で施策化されている生活支援、居住支援を継ぎ足しただけで何の新味がないばかりか、生活保護を巡る国と地方の金目を巡るバトルにまで発展しそうな気配である。

地方行政にとっては「派遣村」＝「生活保護集団申請」のトラウマなのである。その元凶たる元村長が政権入りし、ハローワークに生活保護も申請可能なようなワンストップサービスを実施する（そもそもワンストップサービスを目指してキャリアアップハローワークを新規に開設した筈なのであるが...）となれば、ハローワークが本来受け持つべき失業者の群れが生活保護の方に一気に押し寄せて来るだろうと身構える。個々の相談ならともかく、生保ありきで政治的に申請をしなくてはとなると、一体

福祉事務所の存在意義は何なのかと本質的な疑問が沸いてくるのも仕方があるまい。

こう云う現場の意識を無視し、国は一方的に協力を押し付けてくる。たまたま、東京都が「国への緊急要望」(11/6)の中で、「求職中の貧困・困窮者支援に係わる経費は、国費で確実に措置すること」「年末年始のシェルターは、国の大規模宿泊施設を提供すること」と要望するのも無理からぬ事である。

このまま行くと「新宿御苑」あたりにプレハブ建てて、そこで保護して、そこで生保と云うとんでもない「国有収容所」だか「非人溜」だかが出来そうである。だったら全員、鳩山会館に居所を移し、国家公務員にしてしまった方が良いと思うが...

さて、冗談はともかく、この不毛な議論（見ている方向がまるで違う二つのトラウマ故に決して融合はしないであろう）の背景にあるのは、この雇用難の時代、生活保護しか救済方法がないのか？と云う問題である。

「臨時特例つなぎ資金」「就職安定資金融資」「訓練・生活資金給付」「住宅手当緊急特別措置事業」「生活福祉資金（総合支援資金）」

これらは前政権時に雇用保険非受給者が利用できる施策として、立案化された雇用対策の数々である。この他にも第1セーフティネットたる雇用保険適用者が対象の同類の仕組み（雇用促進住宅などもその一部）があり、尚且つ若年者雇用対策に関しては「地域若者サポートステーション」「キャリアモバ.jp」など実に様々な相談窓口や機能がある。また、これに加えて自治体独自の事業、東京都で言えば「再就職支援貸付事業」などが備わっている。

直接の雇用提供の部分になると「ふるさと雇用再生特別交付金」「緊急雇用創出事業」の基金には過去最高の4000億が投入され、現在都道府県で事業化が進んでいる。

これら、「派遣切り」などで問題となった雇用保険非受給者（と、云うか想定外の事態）を対象とした第2セーフティネット作りは、その柱となる「住宅手当」の申請窓口、相談窓口が全国津々浦々、すべての自治体で整備された本年10月をもって、緊急制度としては完成されたと言われている。

リーマンショック以降、製造業を中心とする経営の悪化とリストラの末、排出された大量の失業者対策は、労働問題から派生した問題だけに、労働行政を中心にした強力な下支え策、防波堤が築き上げられる事となったのである。



これらがすべて万全に機能しているとは思わないが、少なくとも機能はし始めた矢先である。それなのに何故、生活保護なのか？

もちろん、これら防波堤からも弾き飛ばされる人々もいるであろう。緊急対策故に期限も定められており、期限内で問題が解決しなかったケースもあるだろう。そして、その一部がホームレス化したとしても不思議ではない。

事実、新宿ではその影響は今年の6月にピークを達し、炊き出しベースの数値で言えば、6月を単位にすると約200名が暫時新規に増加した計算となる。しかし、その数がそのまま放置されていたかと言えばもちろんそうではなく、ホームレスになったとしても、私たち民間団体がそこには待ち受けている。就労意欲が残っていれば東京都、または新宿区が実施しているホームレス対策の対象なり、自立のチャンスを得ながら、その後、半数程度は路上から脱却している。つまりは、路上に堕ちてきたとして全てが生活保護に頼る必要性はないのである。

この間の緊急雇用対策はすべて「つなぎ」の要素でしかない。その意味で、ここにバラまかれた税金は失業者の生活を下支えする生活保護のお金と同様と言う見方も可能である。しかしながら、それを安易な給付にしなかったのは、インセンティブ（意欲刺激）効果を失業者に期待したからにほかならない。「失業したら直ぐにアパートを貸してもらえ、生活費も現金でもらえる」そんな施策をしてしまったら、皆失業者と云う「身分」から抜け出せなくなると考えたからであろう。

「つなぎ」の要素はもちろん当初は必要である。しかしながら、インセンティブ効果を狙うのであれば、その先には「おいしそうな人参」がぶら下がっていないなければならない。

「介護雇用創造」「グリーン（農林・環境・エネルギー、観光）雇用創造」「地域社会雇用創造」と、今頃言われたとしても、そこに雇用が生まれるまでいつまで待てと言うのであろうか。そんな事はこれまでも言われ続けて来たが、どのような労働力を、どこに移動させ、どのように配置するのかすら示された試しはない。

その点についてはいつも産業任せ、自治体任せなのである。しかも公共事業は入札制度の硬直な運営で、仕事を本当に必要とされている人々に創ると言っても「安かろう、悪かろう」な業者しか参入出来ず、戦略的な産業配置を阻害させている。

「つないで」いられるのも時間の問題でもある。このままでは「つなぎ」の「つなぎ」策が必要となり、ますます訳の判らない施策体系にしかなるまい。

さて、東京都の先の「緊急要望」にかこつけてもう一つ疑問を呈していけば、何故、失業者の問題を大都会に押し付けたままなのか？失業者の問題は都市の局地的問題としてではなく、全国的な視点で捉える必要があるのではないのか？の問いと繋がる。

製造業、とりわけ自動車産業に依拠せざるを得なかった地方での大きな失業問題は、当然ながらその地で吸収される事なく労働者を他所へと向かわせて行く。誰しも働きながら自らの生活を維持させようとするからである。この雇用の流動化は、小さな波であれば人の目にもつかないが、大きな波であればある程、様々な社会問題を躍起させてしまう。景気の連鎖的な悪化による生活水準の低下、犯罪の多様化、精神疾患者の増加、自殺者の増加、文化の荒廃、そして、都市におけるホームレスの増加もその一部である。

こんな時代、かつて都市には「寄せ場」と云う空間があり、単身男性失業者などは建築業の日雇い仕事などで糊口を凌いでいた。東京で云えば、山谷や高田馬場などで。ところが、この伝統的な機能も建設産業の合理化等の理由により近年縮小に縮小を続け、大量の失業者を吸収できなくなって来た。そのため、仕事を求めに来た失業者は都市に漂流せざるを得なくなり、そして、段階を追いながら、生活レベルが下り続け、にっちもさっちも行かなくなり、初めてホームレス生活を余儀なくされる。

この「教科書的」な構図は既にバブル期から構造化しつつあり、失業者を巡る都市と地方の問題は、「都市の新たな諸問題の発生と混迷」と「地方経済の衰退」が表裏一体として進行して来た。



社会がこの構図を放置した訳ではないのだろうが、政治の混迷が続き、根本的な改善が成されていない段階で、今回の事態が重なった。

この双方にとっての「悲劇」はかつてない程に深まり、そして対処療法にばかり目を奪われるようになった。

失業者を受け入れる許容量が都会において飽和状態であるのならどうしたら良いのか？このまま対処療法を続け、「つなぎ」を続け、景気回復までじっと辛抱をしると言うのだろうか。しかし、バブル後の景気回復期を見ても「雇用なき成長」ならば、引き続き大量の失業者を都会は引き受け続けるのであるのか？さすれば都会にはセーフティネットで「つなぎ」切れなかった生活保護世帯が増加するか、それとも、かつての貧民窟が再現されるかしかなくなってしまふ。

ここまで深刻化した事態から、今後この世はどのように転換を図っていけるのか？政治のお手並み拝見なのである。

この10月から開始されている「住宅手当」（半年間の家賃補助制度）などは実に画期的な制度で、生活保護とは反対に、利用希望者がどこの自治体に行っても良いとする運用となっている。すなわち失業者の居所は全国どこでも可能と言う事である。しかしながら、このまま放置しておけば相対的に仕事量が多い都会にしかこの「手当」も集中してしまうだ

ろう。

他方、農村地、半農地などではバブルの頃に建てた優良なアパートがゴロゴロしていて、さながらバーゲンセールのような「空き家あります」の旗が並んでいる。都会で低所得者が暮らせる住宅は供給不足なのであろうが、地方ではまったく逆となっている。今や「半農半IT」などと言う言葉もあるようで、通信技術の発展を背景に、そんな暮らし方も可能となっている。

人口が減り続けていたら産業も起らない。工場の誘致頼りは中国市場を見ていれば今やあまり現実的でもない。

「つなぎ」がある内に「住宅手当」なり「ふるさと雇用再生特別交付金」なりを組み合わせれば、そんな大量には無理かも知れないものの、地域再生の萌芽は、失われた労働力と共に生み出されるかも知れない。

何も空論で言っているのではない。私たちは長野県での「農業研修」をまるまる7年も続け、地域興しに意欲を燃やす農家の人々との交流や議論を続けて来た。その一つの可能性として、そんな事も考えている。

また、「失業対策＝常雇い」と云う凝り固まった発想からではすべてが解決されない事も、東京の自立支援センターの経験で知っている（話は逸れるが、こんな時代だからこそ常雇い就労だとしても東京の自立支援システムは再評価されても良いと思うので

2006-2009 炊出し実数推移



ある～それが硬直化しているだけなのだが)。

貧しい者が立ち上がる契機は、起業、雑業分野であるのは、これまた貧者の歴史から知っている。

かつては建設日雇市場にしか活路がなかった失業者達は今、本当の、そして無限の自由を手に入れようとしていると云う観点から見直してみるのも必要であろう。

こんな事突飛なを考えている者は少ないと言うが、いやいやそんな事はない。市井では井戸端会議でそんな事は普通に会話されている。

役所や労組や市民活動が古い体質のままだけなのである。

生活保護の2種宿泊所が儲かるとなれば、そこに業者が殺到した。東京は地代が高いので埼玉であるとか、千葉であるとか周辺部に今は多くあり、興味本位のマスコミの眼に晒されている。規制は入るだろうが、需要がある限り永遠のイタチごっこである。

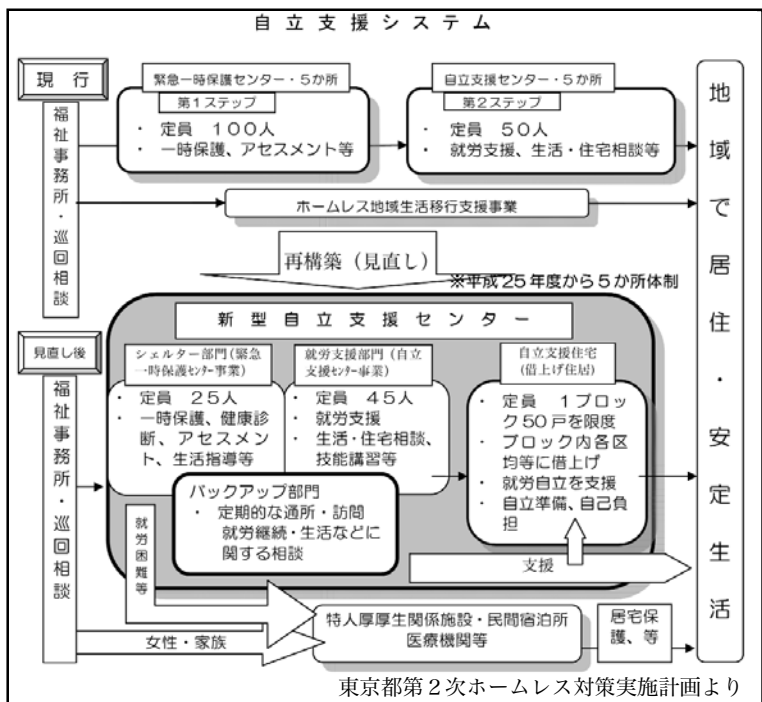
ある意味、経済とは特定の人々の思惑などすぐに超え、勝手に動き出す。

「住宅手当」も半年間は行政が家賃分を補助してくれるのだから、物件が動けば地域の不動産屋も手数料収入が入るし、大家も現金収入が定期的に入る。その他もろもろ失業対策事業のお金が地方にしか

21年8月路上生活者地域別概数 ()は前年数			
千代田区	98 (89)	渋谷区	238 (200)
中央区	129 (154)	中野区	40 (27)
港区	96 (90)	杉並区	34 (37)
新宿区	318 (342)	豊島区	85 (121)
文京区	75 (85)	北区	50 (51)
台東区	580 (561)	荒川区	17 (16)
墨田区	180 (240)	板橋区	62 (62)
江東区	105 (121)	練馬区	6 (9)
品川区	28 (44)	足立区	45 (55)
目黒区	15 (13)	葛飾区	62 (82)
大田区	127 (80)	江戸川区	68 (128)
世田谷区	41 (38)	合計	2499 (2645)

市部 123 (133) 国管理河川分948 (1062)
を加え合計3570名 (3840)

東京都福祉保健局生活福祉部生活支援課資料より



りと回るようになれば、失業者の「つなぎ」にはなるし、労働力が戻ってくれば介護などを含めているようなサービスも提供できる。

コップの中で解決しようとするから頭が痛くなる。少し視点を広げたり、変えたりするだけで物事の見方はがらりと変わるものである。

大きなテーマで始めたせいで新宿の越冬越冬の話がどこかへ行ってしまった。

一時期に比べ多少は落ち着きを見せて来たのでこの街もこれ以上大きな変化もなく、いつもの越冬が出来そうでもある。まあ、色々な問題に引きずられてしまうのが私たちが係わる路上のおじさん達の問題であるが、「ミソも〇〇も一緒」の議論から、そろそろ分離して考えようと言う冷静な気運が出て来ているので、今年あたりは昨年よりも落ち着いた越冬越冬となる事だろう。

東京都はほとんど内容がない「ホームレス対策第2次実施計画」をこっそりと10月に発表し、8月の概数調査も都合計3570名と、これまた実態に即していない減少数を出したりと、相も変わらずではあるが、まともに批判するのもそろそろ飽きて来た。こんな東京都を含めて何のかんのと議論は議論で進めながら、路上からゆっくりとこの国の失業問題を眺めているとしよう。

私たちは、「俺たちの方が不幸だ！」なんてテレビカメラの前でヒステリックに騒がない。不幸自慢はもうこりごりである。ここからどうやってはい上がって行くのか？その現実性を、地域の中で仲間と共にじっくりと考えて行こう。(了)

冬物衣類など募集しています。

皆様にご心配をおかけしている東京、新宿のホームレス問題も、政権が変わろうと何ら変わらず一向に解決の道が見えてまいりません。そして、また冬を迎える季節となりました。

現在、600名近い新宿の路上の方々に私たちは、底辺に生きながらも誇りをもって生き抜いてもらいたいと、様々な支援を行っています。中でも衣類の問題は、路上の方々にいつも清潔で、世間から後ろ指をさされぬためにも重要性が増しています。衣服が汚れていると、もちろん健康面では宜しくありませんし、病院にも行きづらく、電車にも乗りづらく、また仕事にも行きづらくなってしまいます。その為、私たちは衣類提供と同時にシャワーサービスを日常的に実施し、衛生面の向上に努めています。また、冬場は防寒用に厚手の衣類や毛布類も必要となっています。

引き続き、男性もの衣類、毛布類を募っております。皆様のご協力をお願いいたします 集められた衣類は毎週日曜日の炊き出しの前、中央公園等で配布。毎回この衣類配布を楽しみに100名近くの方が既に待っています。昨年のは前半頃は不定期の配布でしたが、今年からは連絡会の定例の配布行動として定着しました。

また、石けんやタオル類は毎週2回、事務所で実施している「シャワーサービス」で利用者の方々に提供しています。こちらでも毎週30名近い方が利用してくれます。

行政支援策の中でも、衣類配布やシャワーサービスなどはあまり力を入れてもらえない分野でもあります。なのでその隙間を民間の力で埋めて行く事には大きな意義があると考えています。

皆様のお気持ちに感謝し、そしてそのお気持ちを路上に届ける役目を私たちはこれからも果たしていきたいと思えます。

引き続きの衣類のご寄付、宜しくお願い致します。



主に必要なもののリスト

毛布	ジャケット	コート
ジャンパー	セーター	ズボン
Yシャツ	Tシャツ	ももひき
下着	靴下	タオル
ベルト	帽子、マフラー	靴（革靴でも可）
石鹸	ひげ剃り	手袋
ホカロン	シャンプー	寝袋

*このリスト以外でも受付可能な衣類はありますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

*連絡会への衣類寄付は残すことなく路上の方々にお渡ししています。フリーマーケット等への転売目的での募集ではありません。

*女性ものの衣類は連絡会は受け付けておりませんので、ご容赦下さいませ。

ボランティア募集中！

新宿炊出し（準備・片付け）
毎週日曜 午後6時より7時半
ところ 新宿中央公園ポケットパーク
池袋炊出し（準備・片付け）
第2、第4土曜 午後5時より7時
ところ 東池袋中央公園

医療相談会

第2日曜 午後7時より8時半
ところ 新宿中央公園ポケットパーク
第2日曜 午前10時より正午
ところ 戸山公園
パトロール（夜回り）
新宿駅周辺 毎日曜 午後7時半～
戸山公園 毎水曜 午後6時～



炊き出し、パトロール、医療相談、衣類配布、シャワーサービスなどやってます。

皆様から頂いたお米などを活用しながら、連絡会では毎週日曜日の炊き出しを欠かさず実施しています。一時は500名を突破した人数も最近は落ち着き、何とか年内一杯お米の調達の目処もつきました。

お米の緊急募集へのご協力ありがとうございました。

その他にも夜間の巡回相談（パトロール）医療相談会、衣類配布、シャワーサービス、福祉行動など仲間の生きるための応急援護事業を連絡会は定期的に実施しています。



第6回新宿夏まつり700人集まり大盛況

第16回目となる新宿夏まつりは前夜祭、本祭と両日晴天に恵まれ久しぶりの夏まつりらしい夏まつりが開催されました。

前夜祭は今年一年路上で亡くなった仲間の追悼会、カラオケ大会、映画会などが催され、前夜祭としては異例の400名近い仲間が集まり、それぞれの思いを祭壇に報告しました。

本祭りは、昼飯に450名が集まり、その後、散髪、かき氷配布、衣類配布の合間に公園管理事務所で行われた新宿区の無料結核検診会にもこれまた異例の211名の仲間が受診。医療相談会、歯科相談会、鍼灸相談会にも多くの仲間が相談に訪れ、夏場の健康管理をしっかりと自覚してくれた模様です。

夕方からはゲーム大会、すいか割り大会の後、晩飯配布の整理券配付には700名の仲間がずらりと公園に並び、久しぶりの大盛況でした。

納涼コンサートは越路姉妹、五十嵐正史とソウルブラザーズ、玉木バンドの皆さんが熱演。ノリノリの曲、しっとりとした曲に暑さを忘れ聞きほれました。

そして、コンサートの合間に特製カレー弁当や缶ビールなどが配布され談笑の輪が広がっていました。

最後は恒例の盆踊りで締め、暑い仲間の祭典は無事終了しました。

ご協力下さった多くの皆様、ありがとうございました。

新宿連絡会 会計報告

2009年6-10月報告

現金のカンパもありがとうございました。お陰様で活動資金についても借りることなく、また余すことなく今年は順調に來ています。とは言え、年末年始は一年で一番経費がかかる時期でもあります。今年度も越年越冬への資金カンパどうぞ宜しくお願い致します。

2009年度6-10月期 新宿連絡会会計収支報告

収入)		支出)	
炊出部門寄付	860,750	炊出し事業費	464,851
夏祭り寄付	203,125	池袋支援費	50,000
その他寄付	2,036,633	夏祭り事業費	525,041
		旅費交通費	38,070
		通信費	29,280
		消耗品費	31,524
		車両費	23,295
		事務所費	1,150,000
		事務用品費	13,650
		リース料	10,290
		研修費	10,000
		支払手数料	14,148
		諸雑費	0
		次期繰越金	740,359
合計)	3,100,508	合計)	3,100,508

2009~2010

冬

第16次新宿越年越冬

2009年12月27日（日）～2010年1月3日（日）

<ところ> 新宿中央公園～水の広場

炊き出し準備 連日11時集合。炊き出し連日（27日は晩飯のみ）＜昼飯＞正午配食＜晩飯＞午後7時配食。医療テント（29日より）24時間体制。連日夜間パトロール、深夜、昼間も有り。夜は頑張れ越冬コンサート、新春映画祭など。31日は年末大イベント、正月は新春餅つき大会など仲間を励ます企画が今年も盛りだくさん。都合の時間には是非中央公園に！

越冬闘争資金カンパ
毛布、冬物衣類（男物）
ホカロン、医薬品
募 集 中 !!

主催・新宿連絡会
090-3818-3450

詳しくは
<http://www.tokyohomeless.com>

●越冬活動カンパ 活動資金の振込は、郵便振替口座00160-6-190947「新宿連絡会」まで。
オンラインカンパは、<http://www.giveone.net/>「Give One（ギブワン）」（登録NPOを探すをクリックし新宿連絡会を見つけて下さい。）からだとジャパンネット銀行、クレジットカードで寄付が可能です。

●越冬関連のカンパ物品送付先は以下の住所にお願いします●

★郵便物及び衣類、医薬品、米などのカンパ物品は

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-6-10関ビル106号 新宿連絡会 宛て

（平日9時～5時で受取が可能です）をお願いします。